

部課名		経済観光部産業政策課											
使命		<p>○町田商工会議所や町田新産業創造センター等の事業者支援機関と連携し、企業の創業期、拡大期などの成長ステージに応じた支援を行うことで、市内産業の活性化を図ります。</p> <p>○市内経済の牽引役である中心市街地においては、町田市中心市街地活性化協議会をはじめ、中心市街地で活動する団体、企業と協力して一層の賑わいを創出します。</p>											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	中間確認			年度末確認				
						進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	中心市街地活性化の 推進	未来 づくり プロ ジェク トかつ 重点 事業 プラン	・「町田市中心市街地まちづくり計画」に基づき、道路などの公共空間(原町田大通り)を継続的に活用して新たな賑わいづくりや交流の創出に取り組みます。	公共空間を利用した実証実験の実施	1回	○	地域の価値を高める取り組みの推進について、町田まちづくり公社と協議を行いました。	町田まちづくり公社と共同で、原町田大通りを利活用した実証実験を実施します。	<p>・実証実験を実施した結果、以下の2点を確認することが出来ました。</p> <p>1.道路などの公共空間を活用して賑わいを創出することの有効性。</p> <p>2.公共空間の活用を継続していくための資金調達や道路使用などの課題解決手段としての、エリアマネジメント団体の必要性。</p> <p>・中心市街地における民間事業者の公益的な取り組みを後押しする制度をつくりました。</p>	1回	B	<p>・当初の予定通り実証実験を実施しました。</p> <p>・民間事業者の取り組みを後押しする制度を新たに制定しました。</p>	今後、公共空間を活用した事業として、周辺に与える影響や事業効果を確かめ、都市再生整備計画へ反映させていきます。
2	商業の活性化支援	重点 事業 プラン	<p>①事業機会の創出や付加価値の高い産業を育成するため、農業・商工業の連携を進めます。</p> <p>②事業がしやすい環境を整えるため、商店会が抱える課題を分析し、課題解決を進めます。</p>	<p>①農業と商工業のマッチング機会の提供</p> <p>②商店会への専門家派遣</p>	<p>①1回</p> <p>②延べ10商店会</p>	○	<p>①農商工連携を推進する組織「農商工連携検討会議」を立ち上げました。</p> <p>②専門家派遣を希望した8商店会に対し、派遣を進めました。</p>	<p>①引き続き農商工連携検討会議を定期的開催し、2月に農業者と商工業者の交流会を開催します。</p> <p>②専門家派遣がさらに活用されるよう、周知を進めます。</p>	<p>①市、商工会議所、JA町田市の3者で農商工連携検討会議を立ち上げ、今後の連携方法について検討を進めました。また、2月に農業者と商工業者の交流会を開催し、マッチングの機会を創出しました。</p> <p>②それぞれの商店会の課題やニーズに応じた専門家を派遣し、会の運営改善や効果的なイベント開催等につなげました。</p>	<p>①1回</p> <p>②延べ20商店会</p>	B	<p>①目標を達成しました。</p> <p>②商店会に対して積極的な活用を促したことから、目標値を大きく上回りました。</p>	<p>①交流会等をきっかけとして連携を始めた農業者と商工業者に対し、ビジネス化に向けた継続的な支援を行います。</p> <p>②各商店会のイベント事業や組織の運営改善につながるよう、引き続き個別課題に適した専門家派遣を行います。</p>

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や成果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	ものづくり事業者への支援の充実	重点事業プラン	①販路の拡大やネットワーク構築の促進に向け、産業見本市への出展を支援します。 ②独自性のある技術・製品の付加価値向上のために、特許権等の取得を支援します。 ③事業者の操業環境安定による成長を促進するため、工場等の環境改善を支援します。	①産業見本市出展支援件数 ②特許等取得支援件数 ③ものづくり企業地域共生支援件数	①17 15件/年 ②10 8件/年 ③1件/年 【修正理由】 中間確認の状況を受けて、より高い目標値を設定しました。	○	①14件 ②10件 ③0件	引き続き周知拡大を図り、制度活用を促進します。	・パンフレットやHP・SNSでの周知強化や、事業者への直接の案内等を積極的に実施することで制度の周知拡大を進めました。  ・幅広い年代を対象とした各種知的財産セミナーを開催し、特許権等の取得に関する啓発を行いました。	①20件 ②14件 ③0件	C	①②積極定期的なPRにより、中間確認時に上方修正した目標値を達成しました。  ③目標値を達成できませんでした。	・利用経験がある事業者のみならず、市内事業者全体へ情報が行き渡るよう、今後も情報発信を工夫します。  ・各種セミナーを通して補助制度の周知を行い、今後も継続的な支援を実施します。
4	創業の支援	重点事業プラン	①起業・創業希望者に対し、「町田創業プロジェクト※」の支援機関と連携しながら、各種支援を行います。 ②起業・創業者及び市内事業者の販路拡大支援等を目的として、資金調達サポートやネットワーク構築支援を行うとともに、町田新産業創造センターを中心として、各種イベントやPRを実施します。  ※「町田創業プロジェクト」地域の支援機関(商工会議所・町田新産業創造センター・金融機関・町田市)が連携して創業者支援を行う公的なネットワーク	①町田新産業創造センターにおける支援件数 ②-1町田新産業創造センターにおける「女性・若者・シニア創業サポート事業」の新規支援件数 ②-2制度融資(創業資金)利用件数	① 270件/年 ②-1 10 5件/年 【修正理由】 中間確認の状況を受けて、より高い目標値を設定しました。 ②-2 15件/年	◎	①町田新産業創造センターにおける支援件数は、2018年度9月末時点で、192件になりました。 ②-1「女性・若者・シニア創業サポート事業」の新規支援件数は、2018年度8月末時点で、6件になりました。 ②-2制度融資(創業資金)利用件数は2018年8月末時点で11件になりました。	①引き続き、創業者の販路拡大、資金調達等の支援を行います。 ②-1新規支援件数を伸ばすため、事業の周知を行うとともに、支援対象者に対しては、事業計画から創業後の経営サポートまで、幅広い支援を行います。 ②-2 2018年度4月1日に実施した、対象者拡大・利率引き下げ等の制度改正内容を周知し、利用者の増加に努めます。	①「町田創業プロジェクト(以下プロジェクト)」の支援機関と連携し、起業・創業希望者に向け、セミナーや個別相談会等を開催しました。その結果、プロジェクトを利用して18者が実際に起業・創業しました。 ②-1「女性・若者・シニア」の方々に対し、資金調達支援や創業後の経営サポート等を行いました。 ②-2 制度改正により、利用件数が増加し、多くの起業・創業者の資金調達を支援しました。	①386件/年(見込み) ※参考: 289件/年(12月末時点) ②-1 11件/年(見込み) ※参考: 10件/年(12月末時点) ②-2 40件/年(見込み) ※参考: 25件(12月末時点)	B	① 町田新産業創造センターの知名度の向上及び「町田創業プロジェクト」のPRにより支援件数が目標値を大幅に上回りました。 ②-1 中間確認時に上方修正した目標値を達成しました。 ②-2 制度の改正と周知により、目標値を達成しました。	町田新産業創造センターを卒業する事業者に対して、市内移転の後押しや、退去後の支援制度拡充を検討する必要があります。

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
5	部内他課と共同での 研修の実施	—	部内他課と共同で研修を実施し、 業務知識の共有を図るとともに、 その講師を務めることで職員の能 力向上を図ります。	研修実施回数	3回	◎	以下の研修を実施 しました(計4回)。  ○庶務担当者研 修 ○異動者研修 ○観光マーケティ ング研修 ○予算事務研修	シェアリングエコノ ミー※や農業に関 する研修を実施予 定です。  ※シェアリングエコ ノミー:物・サービ ス・場所などを、多 くの人と共有・交換 して利用する仕組 み。	以下の研修を実施しま した。  ○庶務担当者研修 ○異動者研修 ○観光マーケティング 研修 ○予算事務研修 ○シェアリングエコノ ミー研修 ○チラシの作り方研修 ○農業に関する研修	7回	B	当初予定して いた部内研修 に加え、全庁 の職員を対象 とした「シェア リングエコノミ ー研修」を実施 するなど、目 標を大幅に上 回る取り組み ができました。	多くの職員が 参加し、研修 内容を業務に 役立てられる よう、毎年研修 時期や内容を 検討する必要 があります。

部課名		経済観光部観光まちづくり課											
使命		市民にとっては地域に愛着を感じ住み続けたいような、来訪者にとっては何度も訪れたいようなまちを実現するため、観光まちづくりを推進します。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	観光まちづくりの担い 手と態勢づくり	個別 計画	地域のおもてなし機運を醸成する ため、観光まちづくりに関するシン ポジウムやワークショップ等を開催 し、観光まちづくりの担い手の拡 大を図ります。	シンポジウム、 ワークショップ 参加者数累計	200人	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下のワー クショップ、研修等 を開催し、計66人の 参加がありました。</li> <li>○観光マーケティ ング研修(17人)</li> <li>○市民参加型ワー クショップ(32人)</li> <li>○観光案内人ミー ティング(17人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月に「町田の 魅力を再発見！ ツーリズムプラン コンテスト」を開催 します。</li> <li>11月に観光まち づくりシンポジウ ムを開催します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下のシンポジウム やワークショップ、研修 等を開催し、計276人 の参加がありました。</li> <li>○観光マーケティング 研修(17人)</li> <li>○市民参加型ワー クショップ(32人)</li> <li>○観光案内人ミーティ ング(17人)</li> <li>○町田の魅力を再発 見！ ツーリズムプラ ンコンテスト(44人)</li> <li>○観光まちづくりシン ポジウム2018(100人)</li> <li>○南多摩三市観光交 流サミット2018(66人)</li> </ul>	276人	B	当初の目標を 上回る多くの 市民がシンポ ジウム等に参 加しました。 シンポジウム 等をきっかけ に、参加者が 観光まちづく りの取り組みを 始めています (3件)。	シンポジウム やワークショッ プ等に参加し た市民が観光 まちづくりに関 わっていくこと が重要です。 今後は、より多 くの市民が観 光まちづくりに 関われる場づ くりを推進しま す。
2	町田薬師池公園四季 彩の杜ブランドマネジ メントの推進	未来 づくり プロ ジェク トかつ 重点 事業 プラン	町田薬師池公園四季彩の杜ブラン ドの浸透のため、ブランドイメー ジを具現化させたロゴマークとPR ツールとしてのプロモーションサイ トを制作し、周知します。	①ロゴマーク の制作 ②プロモーション サイトの制作	①制作完了 ②制作完了	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ロゴマークを複 数案作成し、市民 投票に向けた準備 を行いました。</li> <li>②プロモーション サイトの掲載内容 について検討を行 いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1月に市民投票 を行い、ロゴマーク を決定します。</li> <li>②掲載内容を確 定し、プロモーション サイトを制作しま す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2月に一般投票を実 施し、ロゴマークを決 定しました。</li> <li>②プロモーションサイ トを制作しました。</li> </ul>	①制作完了 ②制作完了	C	当初の予定ど おり、ロゴマー ク及びプロ モーションサイ トの制作を行 いました。	今後、ロゴ マーク及びプ ロモーションサ イトを効果的に 活用し、四季 彩の杜のPRを 行います。



順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	町田ならではの地域 素材の洗い出し・磨き 上げ	個別 計画	①「さくら」をテーマとした観光まち づくり ・市民等と協働で、既存の桜の名 所を守り、育てるため、桜の維持・ 更新や新たな桜の植樹を行います。 ②南多摩三市連携観光プロジェクトの実施 ・町田市、稲城市、多摩市で連携 し、広域MAPやSNS等のプロモー ションツールを作成し、広域的な 観光ツアーを実施します。	①維持・更新 や新たに植樹 した桜の本数 ②-1プロモー ションツールの 作成件数 ②-2広域観光 ツアーの実施 回数	① 30本 ②-1 2種類(広域 MAP、フェイスブ ックページ) ②-2 3回	○	①市民等と協働で 尾根緑道及び芹ヶ 谷公園の桜の植 樹計画を作成しま した。 ②-1 広域MAP (案)作成とフェイ スブックの立ち上 げを行いました。 ②-2 8月にツ アー実施しまし た。	①植樹に向けた調 整及び実施を行 います。 ②-1 広域MAP 作成とフェイスブ ックを活用した観 光情報の発信を行 います。 ②-2 11月及び12 月にツアーを実施 します。	①尾根緑道に神代曙 を植樹しました。また、 芹ヶ谷公園に神代曙と 山桜を植樹しました。 ②-1 広域MAP及び フェイスブックペー ジを作成し、観光情報 の発信を行いました。 ②-2 広域観光ツ アーを3回実施しま した。	①9本 ②-1 2種 類 ②-2 3回	C	①目標値には 達しなかったも の、桜の植 樹等に加え、 市民と協働し た「さくらサ ポーターズ」の 立ち上げや庁 内関係部署と 連携すること により桜を考 える体制をつ くりました。さ らに、桜の魅 力向上を目的 としたライト アップも実施 しました。 ②当初の予 定通り、広域 連携に係る観 光情報の発信 及びツアーを 実施しました。	①現状は地域 的な活動を進 めていますが 、今後は全 市的な広がり にしていくた めに地域や庁 内各部署と連 携する必要があります。 ②より多くの方 に3市に訪し てもらえるよ う観光プロモ ーションを推 進していく必 要があります。
4	シティセールスの推進	重点 事業 プラン	近隣自治体や民間事業者と連携 し、インターネットやSNS等を活用 した情報発信を行います。	SNSフォロワー 数	20,000人	○	近隣自治体及び 民間事業者と連 携して立ち上げた 繁体語圏向けフェ イスブック「東京 新発見」を活用し 、市の観光情報を 発信しました。 フォロワー数は 、11,111人です。	引き続き、近隣 自治体や民間事 業者と連携し、 インターネット やSNS等を活用 した情報発信を 行います。	近隣自治体及び 民間事業者と連 携して立ち上げ た繁体語圏向け フェイスブック 「東京新発見」 を活用し、市の 観光情報を発信 しました。	20,080人 (1/24現在)	C	当初の目標通 りのフォロワー 数を獲得しま した。	より多くの方 に満足してもら えるよう、情報 発信の効果検証 (記事ごとの閲 覧数など)と掲 載内容の充実 を図ります。
5	部内他課との業務知 識の共有及び職員の 能力向上	—	部内研修を実施し、業務知識の共 有と職員の能力向上を図ります。	研修実施回数	3回	◎	以下の研修を実施 しました(計4回)。 ○庶務担当者研 修 ○異動者研修 ○観光マーケテ ィング研修 ○予算事務研修	シェアリングエコ ノミーや農業に関 する研修を実施 予定です。 ※シェアリング エコノミー:物・サ ービス・場所など を、多くの人と共 有・交換して利用 する社会的な仕 組み。	以下の研修を実施 しました。 ○庶務担当者研 修 ○異動者研修 ○観光マーケティング 研修 ○予算事務研修 ○シェアリング エコノミー研修 ○チラシの作り 方研修 ○農業に関する 研修	7回	B	当初予定して いた部内研修 に加え、全庁 の職員を対象 とした「シェ アリングエコ ノミー研修」 を実施する など、目標を 大幅に上回る 取り組みが 出来ました。	多くの職員が 参加し、研修 内容を業務に 役立てられる よう、毎年研 修時期や内容 を検討する必 要があります。

部課名		経済観光部農業振興課											
使命		農の担い手が活躍することで、市民と農業の間に繋がりをもたせる魅力ある農業を推進します。											
実行計画(年度目標)													
	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
順位	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	薬師池公園四季彩の 杜 ウェルカムゲート・ 西園事業	未来 づくり プロ ジェク ト	2020年オープン予定の町田薬師 池公園四季彩の杜ウェルカムゲート における農産物の販売に向け て、農業者等との調整を行い、購 入先や品物等に関する販売計画 骨子を策定します。	農産物販売計 画骨子策定	策定完了	○	認定農業者及び、 農業委員会委員 に対して、農産物 販売の運営方針 について、説明 し、協力を求めま した。  また、関連団体に 販売所に関するヒ アリングを行いました。	農業者や有識者 等の意見を聞き、 販売計画骨子を 策定します。  また、農産物の出 荷等について、ア ンケート調査を実 施します。	農業者や有識者等 の意見を参考に販売品 目や出荷人数を示し た農産物販売計画骨 子を策定しました。  約900名の農業者にア ンケートを配布し、出 荷意向のある約100名 の方の意見を聞くこと ができました。  農業者と東京都、JA 等をメンバーとした「農 産物販売準備会」を立 ち上げ、会議を2回開 催しました。また、農業 者全体に対し、説明会 を開催し、出荷者の登 録を開始しました。	策定完了	C	予定どおり、販 売計画骨子を 策定しました。	ウェルカム ゲートの運営 者が、スムー ズに運営でき るよう、準備を 進めます。 そのために出 荷の意向のあ る農業者への ヒアリング等 を行い、販売計 画を策定し、 計画栽培を行 います。

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
2	まち☆ベジ推進事業	重点 事業 プラン	<p>①多くの方が町田の農業に関する情報を入手できるようにするため、SNSの活用や、外部サイトとの相互リンクを行うことで、農業に関するイベントや直売所情報を発信します。</p> <p>②まち☆ベジを使用している店舗の情報収集や飲食店へまち☆ベジの使用推進を行います。</p>	<p>①SNSでの発信に対する評価数</p> <p>②まち☆ベジマーク使用店舗数</p>	<p>①いいね数 Facebook 300/年 Twitter 360/年</p> <p>②37店舗</p>	○	<p>SNSを活用し、まち☆ベジ市情報等を発信しました。8月末時点でFacebookでは34件発信し、101件の「いいね」Twitterでも34件発信し、177件の「いいね」の評価を受けました。</p> <p>また、外部サイト「まちだけ。」において、農業者に取材した特集記事のほか、直売イベント情報等36件の情報を発信しました。</p>	<p>SNSを活用し、まち☆ベジ市情報等を引き続き発信します。</p> <p>外部サイト「まちだけ。」においても、引き続き農業情報を発信します。</p>	<p>Facebookでは、71件発信し、174件の「いいね」、Twitterでも71件発信し、356件の「いいね」の評価を受けました。</p> <p>SNSでの発信に里山情報を追加し、新たな情報発信を行いました。</p> <p>外部サイト「まちだけ。」でも、農業者の直売所やまち☆ベジグルメ店に関する情報を180件発信しました。</p> <p>SNS等で情報発信していることをお知らせするためのチラシを作成し、配布しました。</p> <p>まち☆ベジ使用店を増やすため、JAアグリハウスにて、まち☆ベジ使用促進PRのポスターの掲示とチラシ配布を行いました。またSNSでも募集案内の発信を行いました。</p> <p>34店舗から3店舗の増を目指した結果、新たに4店舗の登録がありました。しかし、閉店等により6店舗減少し、32店舗となりました。</p>	<p>①いいね数 Facebook 174/年 Twitter356/年</p> <p>②32店舗</p>	C	<p>Facebookでは、昨年度より多くの情報発信をしましたが、目標に届きませんでした。</p> <p>Twitterでは356件の「いいね」があり、概ね目標を達成することができました。</p> <p>まち☆ベジ使用店舗の情報を収集し、店舗へ登録を促し4店舗の登録がありました。</p>	<p>今後も多くの情報を発信するとともに、高評価を得ることができるよう、どのような情報が有効か検討します。</p> <p>引き続き、飲食店へまち☆ベジをPRし、使用推進を行います。</p>

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	農地利用集積円滑化 事業	重点 事業 プラン	遊休農地を活用するため農地パト ロールや聞き取りにより、所有者に 呼びかけを行い、農地バンクの登 録を増やします。	遊休農地を解 消した面積	1.0ha (累計18.6ha)	○	農地の貸借を進め 0.8haの遊休農地 を解消しました。 (内訳 マッチング 0.5ha、相対0.3h a) 新規農地バンク登 録を増やすための 方法について検討 し、8月に5.9haの 農地パトロールを 実施しました。	引き続き、遊休農 地の解消を図りま す。	農地の貸借を進め、 1.2haの遊休農地を解 消しました。(内訳： マッチング0.7ha、相対 0.5ha) 農地パトロールや農業 者への個別説明等 により、農地バンク登録 を0.7ha増やすことが 出来ました。	1.2ha (累計 18.8ha)	C	1.2haの遊休 農地の解消を 図ることが出 来ました。	引き続き、担 い手から遊休 農地の情報収 集及び農地パ トロールを行う ことで、農地バ ンクへの登録 を増やしてい きます。
4	認定農業者事務事業	—	新規の認定希望者への制度説明 や更新者も含めた相談会等の開 催	認定農業者数	89名	○	認定新規就農者 からの切り替えと なる対象者に声掛 けを行いました。 新規の認定希望 者や更新者に個 別制度説明及び 相談会を行いました。 。	認定農業者認定 検討会による検討 結果をもとに認定 します。 学習会等を実施 し、認定農業者と して幅広く活躍し てもらう為に知識 向上を図ります。	広報にて認定農業者 を募集しました。 認定新規就農者から の切り替えとなる対象 者等に制度説明を行 い、6名の方が新たに 認定農業者となりまし た。 しかし高齢等により4名 が辞退し、88名だった 認定農業者は、90名 になりました。 農地あっせん事業で 農地を借り受けて農外 から就農した方の中か ら、初めて2名の方が 認定農業者となりました。	90名	C	認定農業者数 は、目標より1 名多い90名と なりました。	認定新規就農 者からの切り 替えとなる方 や意欲のある 農業者に情報 提供が必要で す。引き続き、 制度説明や個 別相談を行いま す。
5	部内他課と共同での 研修の実施	—	部内他課と共同で研修を実施し、 業務知識の共有を図るとともに、 その講師を務めることで職員の能 力向上を図ります。	研修実施回数	3回	◎	以下の研修を実施 しました(計4回)。 ○庶務担当者研 修 ○異動者研修 ○観光マーケテ ィング研修 ○予算事務研修	シェアリングエコ ノミーや農業に関す る研修を実施予定 です。 ※シェアリングエコ ノミー:物・サービ ス・場所などを、多 くの人と共有・交換 して利用する社会 的な仕組み。	以下の研修を実施しま した。 ○庶務担当者研修 ○異動者研修 ○観光マーケティング 研修 ○予算事務研修 ○シェアリングエコ ノミー研修 ○チラシの作り方研修 ○農業に関する研修	7回	B	当初予定して いた部内研修 に加え、全庁 の職員を対象 とした「シェア リングエコノ ミー研修」を 実施するなど、 目標を上回る 取り組みが 出来ました。	多くの職員が 参加し、研修 内容を業務に 役立てられる よう、毎年研修 時期や内容を 検討する必要 があります。



部課名		経済観光部農業振興課北部・里山担当											
使命		北部丘陵地域の価値・魅力を活かした取組を多面的に展開して、地域の人々が誇りをもち、多くの人が魅力を感じる活力ある地域づくりを進めます。美しく、いきいきとした町田ならではの里山をめざして、多様な担い手を支援し、里山環境の回復や保全活動の充実を図ります。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	年度目標設定				中間確認			年度末確認				
		計画類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や成果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	新たな交流・回遊拠点の開設に向けた検討	未来づくりプロジェクトかつ重点事業プラン	新たな交流・回遊拠点の開設に向けて、場所の検討及び運営主体の絞り込みを行います。	場所及び運営主体の選定	選定	△	大善倶楽部や田中谷戸倶楽部等の開設箇所候補地について、試行的な直売所を実施する際に、土地及び建物の利用条件等でどのような課題があるのかを関連部署と検討しました。	抽出した課題について、関連部署と対応案を検討するとともに、開設箇所候補地周辺の方との話し合いの場を設け、課題等について情報共有し、拠点の機能や運営について意見交換します。また、既存の町内会館等を活用した試行的な直売会の実施を目指します。	開設候補地を増やすため、地域会館等の土地や建物の所有権、使用条件等を調査しました。  地域団体と意見交換を行いました。開設場所や農産物の確保などの課題があり、場所の選定に至りませんでした。	未選定	D	場所及び運営主体の選定に至りませんでした。	開設場所と農産物の確保などの課題について、地域団体と引き続き調整を行います。
2	里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築	未来づくりプロジェクトかつ重点事業プラン	2017年度に選定したモデル地区において、活動団体との協定締結による実施を目指します。また、実践を通じて課題を把握し、2020年度の「町田市山林バンク」本格運用へ向けた準備を進めます。	新たな取り組みにより維持管理や活用が図られた山林などの面積	0.7ha (累計1.4ha)	○	活動予定団体である田中谷戸街づくり協議会と意見交換を行い、管理協定案を作成しました。また、山林バンクの本格運用に向け、活用可能な山林の選定や、制度運用に関する課題抽出に着手しました。	田中谷戸街づくり協議会と引き続き意見交換及び調整を行い、年度内の協定締結を目指します。また、モデル事業の実施等を通じて引き続き課題の抽出と整理を行います。	田中谷戸街づくり協議会と意見交換及び調整を行い、山林バンクモデル事業の協定を締結しました。  モデル地区へのアクセス状況や農地法等、制度に係る課題を抽出しました。  また、新たなモデル地区を選定しました。	1.2ha (累計1.9ha)	B	目標を上回る面積で協定を締結しました。  山林だけではなく、農地も含めた活用をすることができました。	引き続きモデル事業を実施しながら課題を整理し、山林バンク本格運用に向けて準備を進めます。
3	「(仮称)北部丘陵まちづくり推進ネットワーク」の構築	未来づくりプロジェクトかつ重点事業プラン	地域住民や地域で活動する団体等、様々な担い手が集まることにより、組織を発展させた「(仮称)北部丘陵まちづくり推進ネットワーク」の構築を目指します。2018年度は北部丘陵地域での意見交換会を継続開催し、推進ネットワークの立ち上げに向けた機運を高めます。	意見交換会の開催回数	6回	○	2017年度に行った意見交換会を参考とし、さらに内容が充実・進展することを目指して、意見交換会の開催に向けた検討をファシリテーターを交えて行いました。	地区別の意見交換会を、小野路地区と小山田地区で計6回開催します。	11月から小野路地区にて意見交換会を4回開催しました。地域の自主的な活動立ち上げに向けた話し合いを行い、準備会を立ち上げることができました。  小山田地区は、小野路地区での開催終了後に2回開催する予定でしたが、小野路地区での開催に予定よりも多くの時間を要したため、開催に至りませんでした。	4回 (小野路地区)	D	小山田地区での意見交換会が開催できず、目標の回数を開催できませんでした。	2019年度は小山田地区を中心に意見交換会を開催します。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	複数課で重複する業務の効率化	—	業務の効率化を図るため、業務の洗い出しを行います。また、関係部署(公園緑地課、環境・自然共生課等)と担当業務について意見交換を行い、課題を抽出します。	業務の整理状況	業務整理に向けた課題の抽出	○	公園緑地課と環境・自然共生課の里山関連の業務担当者へ、意見交換会の開催について相談し、各課の里山関連業務を整理してもらうよう依頼しました。	関係部署(公園緑地課、環境・自然共生課等)と担当業務について意見交換を行い、将来の計画改定も見据えた課題を抽出します。	関係部署(公園緑地課、環境・自然共生課等)との意見交換や現地視察を踏まえ、生物多様性や里山活用の認知度、管理方法等の課題を抽出しました。  北部丘陵以外の里山環境の状況を把握するため、三輪町や相原町にある緑地を現地視察しました。	業務整理に向けた課題の抽出	C	関連業務の洗い出しと関係部署との意見交換を通じ、課題抽出を行いました。	抽出した課題の解決方法を、関係部署との意見交換や先進事例を参考に、検討します。
5	部内他課と共同での研修の実施	—	部内他課と共同で研修を実施し、業務知識の共有を図るとともに、その講師を務めることで職員の能力向上を図ります。	研修実施回数	3回	◎	以下の研修を実施しました(計4回)。 ○庶務担当者研修 ○異動者研修 ○観光マーケティング研修 ○予算事務研修	シェアリングエコノミーや農業に関する研修を実施予定です。  ※シェアリングエコノミー:物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する社会的な仕組み。	以下の研修を実施しました。 ○庶務担当者研修 ○異動者研修 ○観光マーケティング研修 ○予算事務研修 ○シェアリングエコノミー研修 ○チラシの作り方研修 ○農業に関する研修	7回	B	当初予定していた部内研修に加え、全庁の職員を対象とした「シェアリングエコノミー研修」を実施するなど、目標を上回る取り組みができました。	多くの職員が参加し、研修内容を業務に役立てられるよう、毎年研修時期や内容を検討する必要があります。